

学校だより



平成27年8月26日

横浜市立二谷小学校
校長 渡邊 文子

平和への祈り～先輩を訪ねて～

学校長 渡邊文子

暑い夏休みが終わりました。夏休み中に町で出会った子どもたちは、背が少し伸びて大きくなったように感じました。どのような夏休みの思い出が聞けるか楽しみです。

今年、二谷小創立110周年の年ですが、戦後70年という節目の年でもあります。先日、学校の資料を整理していたときに、「19会」（昭和19年卒業生の会）の皆様のもまとめられた歴史資料が目にとまりました。よくここまでお調べになったというほどの中身の濃さです。一度、お目にかかってお話を伺ってみたい。そう思っておりました。そして、この夏休みに、今も元気溼刺としていらっしゃる19会の田代様、望月様によろやくお話を伺うことができました。

お二人は、二谷小学校を昭和19年3月に卒業されていますが、戦況が厳しくなったため、小学校を卒業すると、勤労働員として工場に働いていらしたそうです。そのような中で起こった、5月29日の横浜大空襲のことを話してくださいました。

勤労働員になって自宅にいた望月さんは、空襲警報が鳴り町内の防空壕に逃げ込みました。その中には危険だと言われたので、外に出てお母様と一緒に火の中を逃げ惑ったそうです。そして、川に飛び込み橋の下でなんとか難を逃れました。町は火の海になって黒い煙がたちこめ、昼間なのにまるで夜中のように暗く周囲が見えなかったそうです。

この日の空襲で二谷小も神奈川工業高校の校舎も焼けてしまい、辺り一面の焼野原。残ったのは、公設二谷市場や栗田谷国民学校等のコンクリートでできた建物でした。

同様に勤労働員先の工場に空襲にあった田代さんも、焼夷弾が落ちてくる中を仲間と一緒にコンクリートでできた防空壕に逃げ込み助かりました。工場から二谷まで帰り着いたとき、家族の安否が一切分からず心配していたお母様は、田代さんの顔を見て「おまえ、生きていたか。」とひと言おっしゃったそうです。どれほど心配だったことでしょう。

お二人の話は、廃材を集めて建てた家のこと、サツマイモやカボチャの食事、買い出しの苦労等々、様々な話題に及びました。

最後に田代さんがご家族の古い写真を見せてくださいました。昭和21年のお正月の家族写真です。皆が笑顔で家の前に立つその写真は、平和なお正月を家族そろって迎えることのできた喜びに溢れていました。3年前には、二谷小児童が疎開先に忘れた竹の物差しが68年ぶりに学校に届けられました。疎開で親元を離れたり、勤労働員として働いたり子どもたちも戦中・戦後を多くの苦労をしながら生きました。お二人のお話を伺いながら改めて、語り継ぐことの大切さと平和の大切さを感じました。二谷小学校のこれからの歩みが平和の歩みであるように。それは私たち大人の責任。そんな思いを強くしています。



田代次郎さん（左）望月利男さん（右）